

うぐいすの鳴き声

うぐいすのなきごえ



作:近藤せいけん

6月のある日の早朝、静かな住宅外のはずれにある、がけ地の一本の大きなケヤキの木の枝から、

「ホーホケキョ」と突然鳴き声が響く。

少し間隔をあいて、また「ホーホケキョ」と鳴き声がする。

がけ下にいる「のら猫の黒ちゃん」が高いケヤキの枝にいるうぐいすをじっとにらむ。

がけ下の家に飼われている犬の「ラブちゃん」も片目を開け「うるさいなあ」とうぐいすのほうを見る。

七月に入ると、うぐいすの鳴き声が変わった。

「ホーホケキョ、ケキョケキョケキョ」

「ホーホケキョ、ケキョケキョケキョ」

毎朝、雨の降らない日は早朝、明るくなると鳴きはじめる。

「のら猫の黒ちゃん」もあきらめがおで、もう顔をあげない。

飼い犬の「ラブちゃん」ももう顔をあげない。

よく見ると、うぐいすは大きなケヤキの木の中段にあるホコラに巣をつくり頭を、出したり、引っ込めたりしている。

「ホーホケキョ、ケキョケキョケキョ」

「ホーホケキョ、ケキョケキョケキョ」

初夏の青空の下、元気なよく通る声でさえずる。

「ホーケキョ ケキョ ケキョ～」

「ホーケキョ ケキョ ケキョ～」

今日もよく晴れ、一日が始まった。